2026年度　富士通健康保険組合 予算について

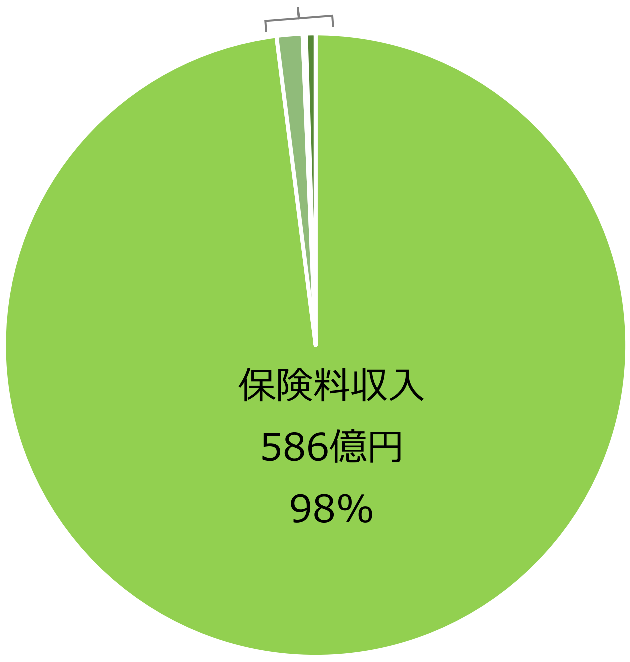
2026年度予算について、2026年2月の組合会にて承認されましたので概要をお知らせします。

健 康 保 険

診療報酬プラス改定の影響を織り込み実質収支は▲17億円の赤字予算
収入の不足分については積立金を活用し保険料率は88‰を維持

収入　598億円

財政調整事業交付金　：8億円　1%
雑収入　：3億円　1%
国庫補助金収入・交付金　：1億円　0%



標準報酬は上昇傾向も被保険者の大幅減により保険料収入は大きく減少する見込み

≪保険料収入≫

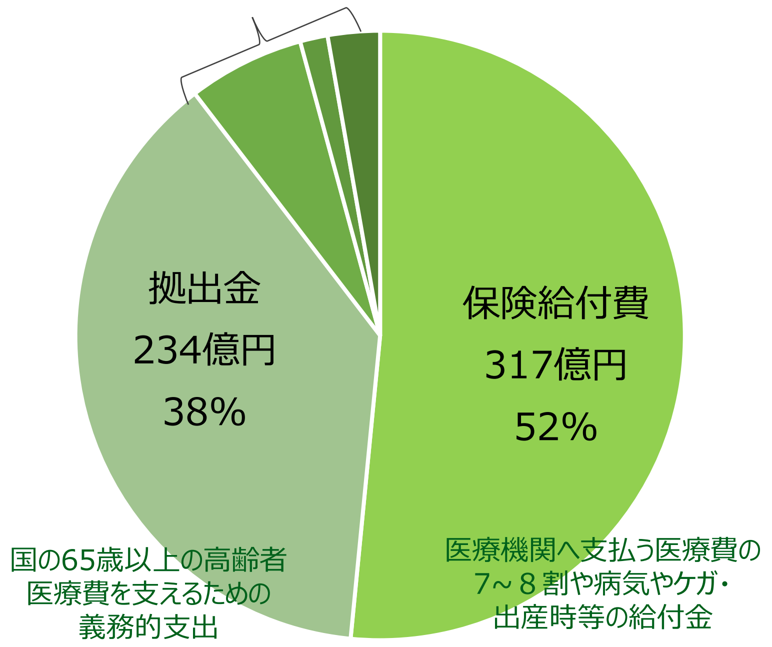
（億円）

	2025年度（決算見込み）	2026年度（予算）	前年差
保険料収入（調整保険料含む）	645	586	▲59

※2026年度　年間平均被保険者数(見込み)　80,947人

支出　615億円

保健事業費　：38億円　6%
営繕・事務所費他　：17億円　3%
財政調整事業拠出金：9億円　1%



人員減の影響で保険給付費・拠出金ともに総額では前年より減少見込み
保険給付費は診療報酬プラス改定の影響を加味して計上

（億円）

	2025年度（決算見込み）	2026年度（予算）	前年差
保険給付費	336	317	▲19
拠出金	257	234	▲23
保健事業費	36	38	2
営繕・事務所費　他	21	26	5

【保険給付費（被保険者一人当たり額）】※給付費総額を被保険者数(年間平均)で割った額

	2025年度（決算見込み）	2026年度（予算）	前年差
一人当たり保険給付費（円）	374,498	391,823	+17,325
前年比伸び率	+3.0 %	+4.6%	+1.6%

診療報酬プラス改定 ⇒保険給付費総額で＋5億円程度の影響を見込む

・保険給付費

2026年度は、近年の物価上昇や人手不足・賃上げ等への対応として12年ぶりとなる診療報酬のプラス改定が予定されています。加えて、医療の高度化や高額薬剤の保険適用、また、感染症の流行など、今後も保険給付費の増加要因が多い状況です。これらを背景に、保険給付費（被保険者一人当たり額）は、前年の増加見込み率+3.0%に診療報酬改定分＋1.6%を織り込み、前年比＋4.6%の増加を見込んでいます。

・拠出金

日本の高齢者医療費を支えるため法律で拠出が義務づけられています。被保険者数減の影響で、拠出総額は前年差▲23億円と減少の見込みですが、引き続き当健保の支出の4割を占める状況に変わりありません。

・保健事業費

保健事業については例年並みの予算としています。事業の効果を検証しながら、引き続き加入者の健康支援を行います。

介護保険

2026年度の料率は子ども･子育て支援金の負担増を加味し昨年度と同等の15‰を維持

収 入（介護保険料等）	：70億円	（決算見込み差▲8億円）
支 出（介護納付金等）	：71億円	（〃　＋1億円）
収　支　差　引	：▲1億円	（〃　▲9億円）

子ども･子育て支援

「子ども･子育て支援金」制度がスタート。国が提示する率に基づき健保は徴収･納付を代行

収 入（介護保険料等）	：15億円
支 出（介護納付金等）	：13億円
収　支　差　引	：＋2億円

・被保険者の報酬（報酬月額、賞与）に以下の率をかけて計上。

【国から提示された率（2026年度）】

収入：子ども･子育て支援金　0.0023（＝2.3‰）
支出：子ども･子育て支援納付金　0.00200411

・余剰金については、翌年度以降の支援納付金の支払いに備え、子ども準備金に積み立てます。

富士通健康保険組合では、今後も保険給付費、拠出金等の動向を注視するとともに、健保財政の安定的な運営に努めます。
また、各種保健事業を行っていますので、みなさまご自身とご家族の健康増進にぜひお役立てください。

詳細は健保HPをご覧ください　https://kenpo.jp.fujitsu.com/index.html